



総務常任委員会	10月23・24日	愛知県名古屋市、高浜市
健康福祉常任委員会	10月8・9日	愛知県長久手市、稻沢市

公園利用と公衆トイレ整備・街路樹の維持管理 今後の課題を学ぶ

生活環境常任委員会

盛岡市 木伏緑地について 岩手県盛岡市

Park-PFI制度を最大限に活用する取組み

盛岡市は駅前や中心市街地の公園が持つ可能性は認識しつつも、利用者の少なさや公衆トイレの不足、財政負担といった課題がありました。その課題解決に向け、都市公園への民間活力導入を促進する制度(Park-PFI)をいち早く活用してきた木伏緑地を視察しました。

民間事業者の事業継続性確保のため設置管理許可期間の延長・収益施設の設置面積確保のため建ぺい率の緩和・占用物件の特例措置を事業設計に取り入れ、地元事業者の参入につなげることに成功し、Park-PFI制度を活用した事業を行ったことで公衆トイレ整備や商店街活性化など地域課題の解決が図られました。

現在、地元の方が企画するイベントが増え市内外から多くの人が賑わい、公園が単なる緑地ではなく、賑わいの拠点・まちのリビングとして機能することで街の回遊性が上がり、収益による公園やトイレの維持管理に要する費用

の軽減にもつながっています。

本市の多摩中央公園は、敷地面積が約11万平方メートルと広大であり、全国のPark-PFI事業の中でも最大規模となっており、木伏緑地の事例を参考に今後取組んでいきたいと思います。



街路樹における緑の管理・更新について 宮城県仙台市

百年の杜づくり事業と緑に関わる人材育成

仙台市は市域に奥羽山脈から海岸までが含まれ、多様な自然環境が分布しており、市の中心部の緑が一体となった緑豊かな都市は、「杜の都」としてブランドになっています。

1973年「杜の都の環境をつくる条例」を制定し、市街地に残る緑地や樹木などの保存、工場や事業所内の敷地内緑化の義務化を行い、そこから物質的な豊かさから持続可能な社会への意識転換を契機に1998年より「百年の杜づくり」を開始、百年という時を味方に「みどりと共生する都市」を創造し、未来への継承をしていく取組みを行っている仙台市を視察しました。

「みどりで選ばれるまち」・「みどりを誇りとするまち」・「みどりを大切にするまち」などの基本方針を策定し、緑の保全・普及・創出を図り、グリーンインフラの推進に取組み、企業参画でみどりを創出するため「仙台おもてなし花壇」を行い、仙台市が管理している花壇を70の企業・団体等から協賛をもらい、維持管理費用を低減させながら市民協働で花壇の品質を保つ工夫もされています。

年2回(夏期・冬期)宮城県造園建設業協会と協同で学科と実技の講習会が開催され、街路樹の剪定技術や維持管

理の考え方を受発注者間共通の認識を持つことができ、適正な維持管理のもと、美しい街路空間が生み出されています。

また、担当市職員は造園職・樹木医など専門職が40人ほど在籍し、管理や計画に携わり、生活環境の保全・生物多様性の保全・賑わいの創出に取組んでいます。

仙台市は、街路樹と公園のみどりを同じ部署が管轄することで管理と保全が行われていましたが、本市でも参考にしていきたいと思います。

